

心臓カテーテル検査中の患者の持つ不安とその要因

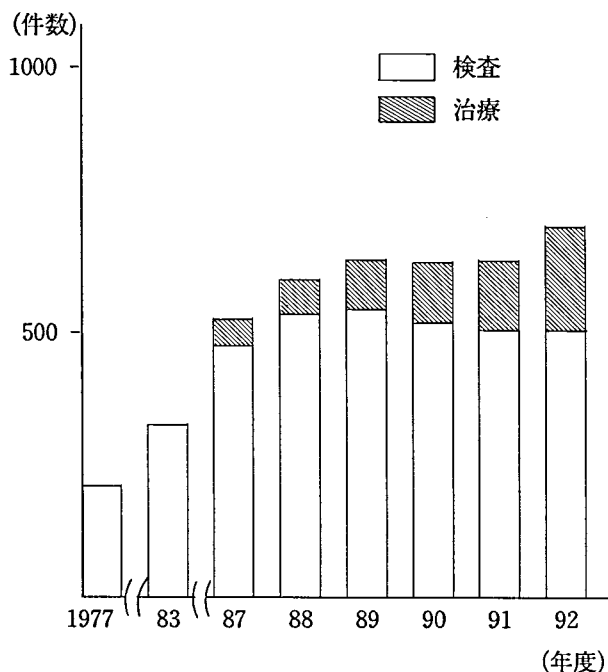
特撮室：大曾 契子・逸見 敏子

1. はじめに

心疾患における心臓カテーテル検査は診断、治療方針の確定に重要である。ここ数年間に検査だけでなく、治療も導入され頻繁に行われるようになった。当心血管特撮室では、1992年度は700例に及ぶ心臓カテーテル検査、治療（以後心カテと略す）が行われた。（図1）

心臓は直接生命にかかわる臓器であるとともに、検査には多くの危険を伴う。検査室に入って来る患者からは不安や緊張、時には恐れが伝わってくる。その上ほとんどの場合が意識下で検査、治療を受けるため不安は更に大きくなる。心カテを受ける患者は、検査中どのような時に、どのような不安を持ち、検査の終了を待っているのだろうか。

過去の研究に於いて、心カテ前後の不安について調べたものはあるが、検査室の中での不安についての調査は少ない。今回、検査中の不安について調査し、その要因について検討したので報告する。



(図1) 心臓カテーテル検査室における検査、治療の推移

2. 研究目的

- 1) 心カテ前と、検査室内における患者の不安の変化を知る。
- 2) 患者の行動から検査に対する不安を明らかにする。

3) 患者の不安の要因は何かを探る。

以上より患者の不安と、その要因を知り今後の心カテ、治療時の看護に役立てる。

(用語の操作的定義)

心カテによる検査：左心カテ、右心カテ、冠動脈造影、負荷試験、電気生理、その他

心カテによる治療：経皮的冠動脈形成術 (PTCA)

経皮的静脈的僧帽弁連切開術 (PTMC)

冠動脈アテローム切除術 (DCA)

経皮的冠動脈内血栓溶解療法 (PTR)

アブレーション ペースメーカー植え込み術 一時ペーシング

3. 研究方法

1) 研究期間

H 5. 6. 28～8. 6

2) 研究対象

H 5. 6. 28～8. 6 に心カテ室にて検査、及び治療を受けた患者

男性 30名 女性 14名 平均年齢 58.6才

3) 研究方法

(1)検査に対する不安の変化

a 検査前の不安度測定には、STAI 使用 (資料1)

中里²⁾ らによって作成された、日本語版の状態不安尺度 (STAI x-1) を用いて不安度を測定した。検査日前日に訪室し、記入を依頼した。

b 病棟出床時の血圧、検査室入室直後の血圧、検査開始後患者の表情などから不安が軽減されたと判断される時期 (入室後30分を目安) に血圧測定をする。検査に使用される高圧剤等の影響を受ける時間を避けて測定する。

(2)検査中の患者の行動を観察

Monti^{1) 3)} らによる9項目の行動評価尺度を参考にしその内の6項目に沿って観察した。

①身体の動き ②顔の表情 ③視線 ④身振り ⑤会話 (話す速さ 沈黙) ⑥タイミングの合わせ方

不安行動1つにつき1点とする。

(3)不安内容の調査 (資料2)

検査中の不安に影響を与えると思われる要因を、過去の特撮室における研究⁶⁾ と経験から抽出し、環境 (2) 身体的苦痛 (2) 検査の進行状況 (3) 検査結果 (3) に分け、10項目を作成した。それぞれの質問項目に最も不安の強い場合に3点、最も不安の弱い場合に0点を与える、4段階の選択肢を用意した。

退院1週間後に調査表を郵送する。

4. 調査結果

1) 心カテに対する不安の変化

a 心カテ前に S T A I を行った結果, 状態不安得点の平均は41.0であった。性別では, 男性38.6 女性19.0であった。女性の方が高得点を示し, t 検定において1%水準で有意差が認められた。

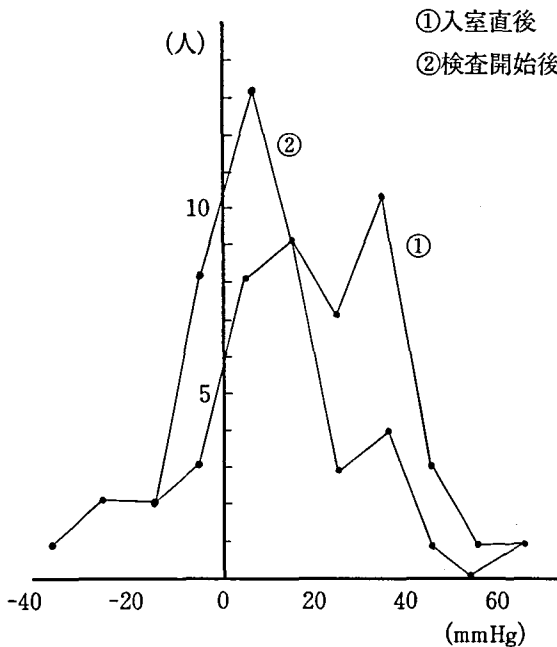
($t=6.95$ $df=41$ 0.01) P)

b 血圧測定の結果 (図2)

心カテ室入室直後は, 病棟測定時より最高血圧は平均22.6mmHg上昇する。検査開始後約30分には, 最高血圧は入室時より平均13mmHg下降する。

最高血圧の病棟測定値と入室直後の最高血圧, 入室直後と検査開始後の最高血圧, 病棟測定値と検査開始後の最高血圧測定値との間は, それぞれ t 検定に於いて有意差が認められた。

(図2) 心臓カテーテル検査室と病棟の血圧測定値の比較



(病棟測定値と検査室測定値 $t=5.7$ $df=86$ 0.01) P)

(入室直後と30分後の測定値 $t=3.3$ $df=86$ 0.01) P)

(病棟測定値と30分後の測定値 $t=2.7$ $df=86$ 0.01) P)

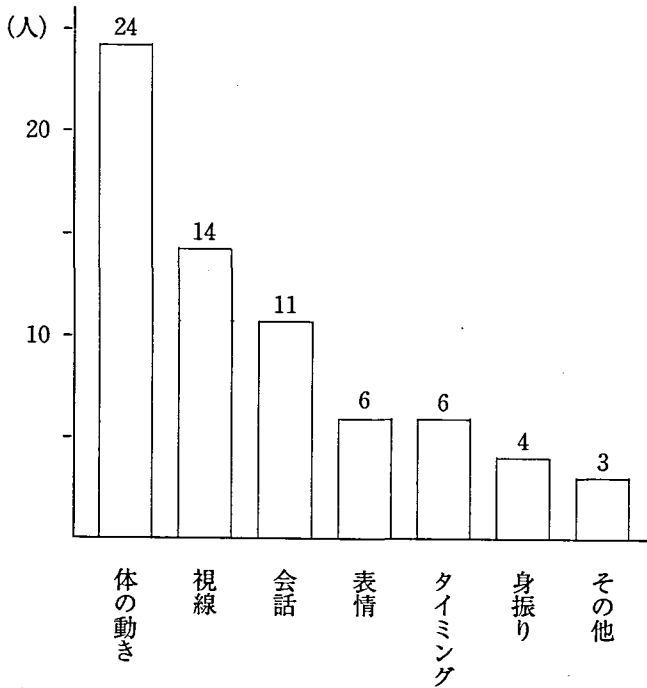
a, b より状態不安得点の高い人 (41以上) と, 検査室入室時の最高血圧が^s (10mmHg以上) 上昇した人との間では, χ^2 検定にて有意差が認められた。

2) 心カテ中の患者の行動評価

心カテ中の患者の行動を観察すると, 以下のものであった。(図3)

①身体の動き — あわてる。身体に力を入れている。ぎこちない動きをする。(25人)

- ②視線 — 目を閉じたまま、周囲を見回してばかりいる。看護婦の姿を追う。(14人)
- ③会話 — 沈黙、多弁、速口で喋る。(11人)
- ④顔の表情 — 羽を食いしばる、渋い顔。(6人)
- ⑤タイミングの合わせ方 — 適切な時に頷いたり、ほほ笑んだりできない。(6人)
- ⑥身振り — 落ち着かない、何をしても敏感に反応。(4人)
- ⑦その他 — 看護婦の手を握る、体を震わせる。(3人)



(図3) 不安・緊張を表す主な動作

以上の行動は、入室時一番多く見られ検査進行と共に、減少してゆく。不安行動評価得点の平均は1.4、性別では男性1.3 女性1.6と男女差は認められない。

3) 心カテ中の不安要因

a 心カテ経験の有無：

心カテ経験者 14人 未経験者 30人

経験者の状態不安得点の平均42 行動評価得点は1.5

未経験者の状態不安得点の平均39 行動評価得点は1.4

であり、経験の有無による不安度、不安行動に有意差はなかった。

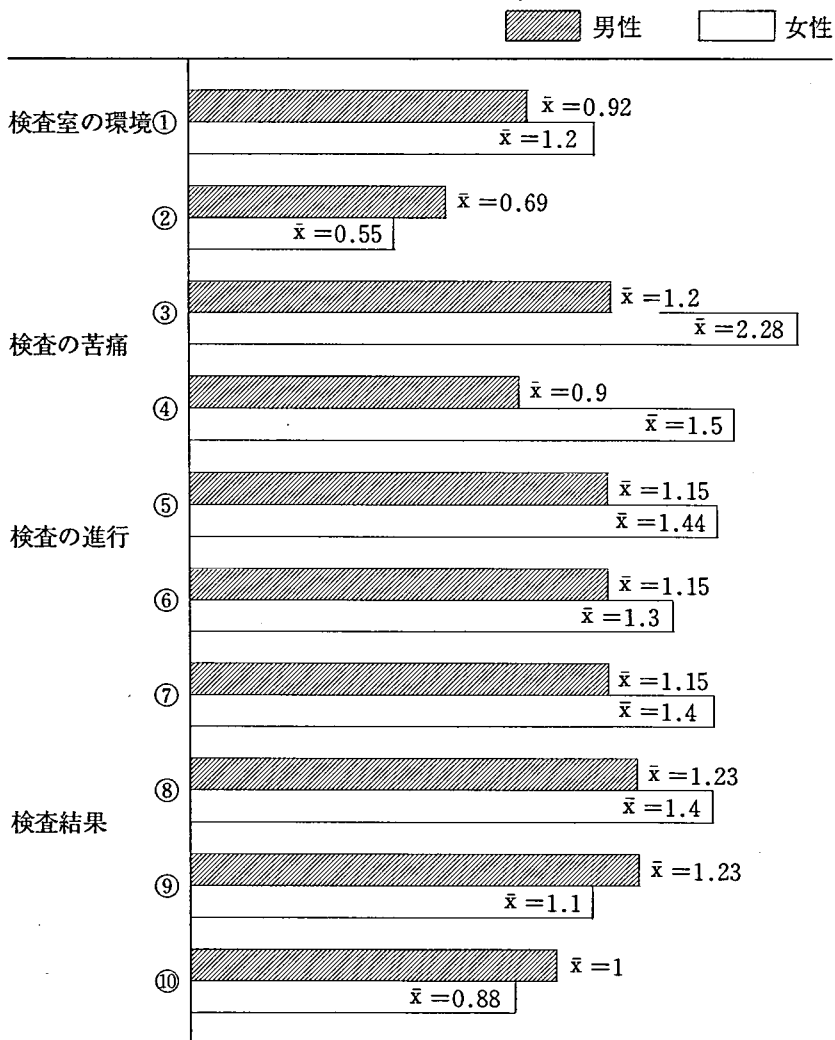
b 不安の内容 (図4)

調査表の回収率 72% 有効回答率 66%

検査中の不安内容の平均得点を質問別に見ると以下の様であった。

不安内容	全体平均	男性	女性
検査室の環境	0.84	0.8	0.9
身体的苦痛	1.5	1.1	1.9
検査の進行状態	1.3	1.2	1.4
検査の結果	1.1	1.2	1.1

男女共に検査による痛みの不安が強い。特に女性は男性に比べて不安が強い。次に検査の進行状態に対する不安があり、検査結果、検査室の環境の順になる。男性は痛みよりは検査の進行状態やその結果に不安を持っている。



(図4) 検査中の不安内容

5. 考 察

検査室内での不安というのは、医師から説明を受けている実際の危険に対する不安と、次は何をされるのかというような漠然とした恐れ感情である。小嶋⁴⁾が『患者の不安が最も大きいのは、検査中である』と報告しているように、心カテ前にオリエンテーションを受け、検査前日には「何も心配な事はない」と話していた患者も、検査室に入ると不安行動が現れる。

今回の研究結果より、検査室入室直後から穿刺が終了し痛い事は終わったと告げられるまでの約30分間は、①血圧測定値が病棟測定値よりも有意に高くなっていること、②患者の行動から不安行動が多くみられることから、患者の不安が最も大きく、緊張も高くなる時期といえる。

検査室内での不安行動では半分以上の人が、身体の動きに変化があり、どこか不自然な動きをする事が解った。また周囲の光景を目に入れまいと目を閉じている人も多い。検査台への移動時、患者の安全に十分な配慮をし、安心してもらえるような声かけが必要である。

心カテ経験の有無別に見ると、心カテ前の状態不安得点、血圧の上昇、不安行動得点のいずれにも有意差はみられなかった。初めて検査を受ける人は、漠然とした恐れによる不安を持つが、経験者もまた前回の検査による苦痛が思い出されるのであろうか。実際、経験者の言葉から「初めての時は夢中で終わってしまったが、今度の方が何をされるか解るのでいやだった。」と答える患者も意外に多い。経験の有無にかかわらず検査前に不安の度合いの高い人は、検査室でも不安が大きくなるという結果を得た。

男女別では、女性の方が心カテ前状態不安得点、心カテ中の不安内容ともに男性に比べて有意に大きかった。特に痛みについての不安が大きい事が特徴である。男性は痛みよりは検査の結果や、検査が今どこまで進み、何をされているかという方に不安を持つ傾向がある。

心カテ中は痛みへの不安を和らげる為の看護が大切であり、同時に患者が安心できるようにカルテの進行状況を説明してゆく必要がある。

6. まとめ

- 1) 検査室に入った患者は、入室直後は不安が大きい心カテが始まってからは軽減する。
- 2) 検査室では様々な不安行動が現れ、不安の及ぼす身体的側面が大きい。この傾向は、不安度の高い人ほど著明である。
- 3) 不安とその内容は性別により違ってくる。
- 4) 心カテにおいて経験の有無による不安の差はみられない。

7. おわりに

今回は対象数が少なく、まだ調査も途中段階であるが、心カテ中の患者の不安について一応の傾向はつかめた。検査室に入ると不安や緊張が高まるということから、患者が心カテに対してイメージしているものと現実とのギャップが、かなりあると思われる。検討し、今後の看護に役立てていきたい。

8. 引用・参考文献

- 1) 浅井 昌弘, 壁島 彬朗: 不安の診断と評価 神経精神薬理第10巻9号 P 569～P 589

- 2) 中里 克治, 水口 公信: 新しい不安尺度 STAI 日本版の作成 心身医療 1982年4月第22巻
22号 P 108~ P 112
- 3) Monti, P.M., Boice, R., Fingeret. A. L, et al. : Midi-level measurement of social anxiety in
psychiatric and non psychiatric samples Behav Res Ther. 22 651-660 1984
- 4) 小島 淳子他: 心臓カテーテル検査を受ける患者の看護 第22回 成人看護 日本看護協会
158-160 1991
- 5) 宮城 音弥編: 岩波小辞典「心理学」第3版 P 23 P 50 P 185
- 6) 逸見 敏子他: 特撮室での検査介助にあたってー検査前訪問ー看護研究集録 信州大学医学部
付属病院看護部 1980

(資料1)

検査前にお聞きした質問と同じですが、お答え下さい。

あまり考えないで、貴方の気持ちをよう表すように、今感じている通りにつけて下さい。

	(全く ちがう)	(いく らか)	(まあ そうだ)	(その 通りだ)
1. 気が落ち着いている.....	1	2	3	4
2. 安心している.....	1	2	3	4
3. 緊張している.....	1	2	3	4
4. くよくよしている.....	1	2	3	4
5. 気楽だ.....	1	2	3	4
6. 気が転倒している.....	1	2	3	4
7. 何か悪いことが起こりはしないかと心配だ.....	1	2	3	4
8. 心が休まっている.....	1	2	3	4
9. 何か気がかりだ.....	1	2	3	4
10. 気持ちがよい.....	1	2	3	4
11. 自信がある.....	1	2	3	4
12. 神経質になっている.....	1	2	3	4
13. 気が落ち着かず、じっとしてられない.....	1	2	3	4
14. 気がピンと張りつめている.....	1	2	3	4
15. くつろいだ気持ちだ.....	1	2	3	4
16. 満ち足りた気分だ.....	1	2	3	4
17. 心配がある.....	1	2	3	4
18. 非常に興奮して、体が震えるような感じがする.....	1	2	3	4
19. うれしい気持ちだ.....	1	2	3	4
20. 気分がよい.....	1	2	3	4

(資料2)

心臓カテーテル検査について該当するものに○印をつけて下さい

- 1) 今までに何回受けたことがありますか
1. 初めて 2. 2回目 3. 3回以上受けている
- 2) 最後に検査を受けたのはどのくらい前ですか
1. 1年以内 2. 2年以内 3. 年以上前
- 3) 以前に検査を受けられたことのある方にお聞きします
その時は
1. 検査を受けた 2. 治療を受けた 3. 検査も治療も受けた
4. 検査を受けたのか治療を受けたのか覚えていない
- 4) 看護婦が検査前日に訪問させていただいていますが、その感想をお聞かせ下さい
訪問により 1. 安心して検査に臨めた 2. 余計に不安になった
3. 1. 2. どちらともいえない
その他 訪問についてご意見がありましたらお願いします
()

5) あなたが検査室に入ってからのことを思い出して下さい
検査中どんなことが不安でしたか

- | | とても不安 | 不安 | 不安なことは
なかった | 安心してた |
|------------------------------------|-------|----|----------------|-------|
| 1. 大きな機械がいくつもある | + | + | + | + |
| 2. 大勢の医師、技師、その他の人がいる | + | + | + | + |
| 3. どのくらい痛いのか | + | + | + | + |
| 4. 麻酔は効いてくれるのか | + | + | + | + |
| 5. 無事に検査は終わるのか | + | + | + | + |
| 6. 検査はうまく進んでいるのか | + | + | + | + |
| 7. いつ検査は終わるのか | + | + | + | + |
| 8. 検査結果が悪かったらどうしようか | + | + | + | + |
| 9. これからの生活はどうなるのか | + | + | + | + |
| 10. 費用はどのくらいかかるのか | + | + | + | + |
| 11. その他 何でも結構です 不安だったことがあったら書いて下さい | | | | |
- ()